

目 次

・有歯補綴咬合学講座および化学教室 教授就任 …………… 3	・平成 21 年度 科学研究費補助金交付 ならびに学内学術研究助成金交付 …… 8
・教授就任挨拶 田中昌博 …………… 3	・ハイテク・リサーチ・センター整備事業 「歯周病に対する戦略的研究」 第 1 回研究成果報告会 …………… 11
・教授就任挨拶 藤原真一 …………… 4	・第 17 回公開講座（天満橋講座） …… 13
・平成 21 年度オープンキャンパス実施 …… 6	・平成 21 年度 実験動物慰霊祭 …… 13
・第 41 回全日本歯科学生総合体育大会 …… 6	・学位（博士）授与報告 …… 13
・平成 21 年度 地方父兄会開催 …… 6	・附属病院で「ボランティアコンサート」… 14
・平成 21 年度 備品調査 …… 6	・人 事 …… 16
・平成 22 年度 入学試験実施要項 …… 7	・あとがき …… 16
・関西医科大学と「学術交流に関する 包括協定」締結 …………… 7	



関西医科大学と「学術交流に関する包括協定」締結（平成21年8月19日）
協定書に署名する本学・川添学長（左）と関西医科大学・山下学長（右）

有歯補綴咬合学講座および 化学教室教授就任

平成21年10月1日付で、有歯補綴咬合学講座主任教授に田中昌博先生、化学教室主任教授に藤原眞一先生がそれぞれ就任された。

両先生の教授就任挨拶を掲載します。

教授就任挨拶 有歯補綴咬合学講座 田中 昌博

平成21年10月1日に、現理事長・学長であります川添堯彬教授の後任として、有歯補綴咬合学講座を担当させていただくことになりました。



本学は2年後に創立100周年を迎えます。そして当講座は、創立当初の明治45年から歯冠継続架工学の講義を開始しております。伝統ある大学ならびに講座の発展のために、自らに与えられた職務を全うすることをお誓いたします。そして、皆様のお力添えもぜひ頂戴いたしたく、お願い申し上げます。

教授就任にあたり、これからの抱負を述べさせていただきます。

○教育に対する抱負

「大学は高等研究機関ではなく、高等教育機関である。教育をしっかりやる大学こそ、立派な研究がなされる」と、いわれています。何よりもまず、教育に全力を傾けます。奉職して24年間臨床実習教育に携わり、毎日、学生と対面してきました。振り返ると、いわゆる指示待ちで、受動的な学生を多く見てきました。これまでのあらかじめ噛み砕き食べやすくしたものをスプーンで与えるような教育から、問題発見・解決型の主体的な学習態度を身につける教育に移行させていきたいと考えています。

一般的に、問題とは「現状と目標のギャップである」と定義されます。そこで学生には、目標を明確に定め、

現状を正しく把握させ、そのギャップを埋める作業を行わせませす。この問題解決への道筋における教育方略、すなわち「学習定着率」を高める工夫・改善を行います。学習した内容が定着せず身につけていないままでは、学習意欲は失せてしまいます。共用試験や歯科医師国家試験の成績を向上させるためには、定着率を高めて学生のやる気を引き出していかなければならないと認識しております。

1. 卒業前の教育への抱負

・講義と模型実習

元来、「講義」は学習定着率が低く、スキルアップを図る必要があります。わかりやすい講義を目指して、到達目標、具体的な方略、時間の配分などを記した指導書を、講義に先立ち、毎回準備します。そのシナリオに沿って、講義を展開していきます。そして講義が終了する約10分間に、講義の重要点や質問・意見、そして講義への学生評価を、ミニッツ・ペーパーに記述させます。この学生との相互のやりとりから、次の指導案を修正していき、タイムリーな講義改善を行います。

また、節目に実施するテストについて、S-P表分析を行い、①生徒一人ひとりの弱い点を把握し、②出題問題の吟味と指導の徹底に努めます。つまずいた学生に応じた助言や課題を与えることで、個別の学力育成に役立ちます。

一方、「実技」は学習定着率が高い方略ですが、現状では、模型実習の時間短縮や学生ニーズの低下から、学生にしっかりとした指導はできていません。学生が手を動かし、補綴装置を完成させる技能教育の機会を充実させて、学習定着率を高めたいと考えます。

・臨床実習

これまで、臨床実習の終了時での到達すべき姿が明確ではありませんでした。そこで、日本補綴歯科学会教育問題検討委員会が推奨している実技試験を、Advanced OSCEとして実施することを考えています。具体的には、前歯前装冠と臼歯全部鑄造冠それぞれの支台歯形成、あるいはテンポラリークラウンによる審美や咬合の回復を課題とします。

さらに今後、臨床実習は診療参加型（クリニカルクラクシップ）に移行しますが、その際、教員による指導体制に加えて、病院医員や卒後研修医、時にTAを含めた屋根瓦方式による指導を考えています。その根

また基礎科学の「2-1-2物質の構成と変化」では生命科学を学ぶために必要な大学レベルの化学の基礎学力を身に付けさせることを目的に教育を行っています。しかしながら、18歳人口の減少・ゆとり教育の弊害等により学生の入学時の基礎学力格差の拡大が本学の教育において大きな問題となりつつあります。私は入学後できるだけ早い時期での学生の基礎学力の向上と学力格差の解消、さらに専門教育へのスムーズな移行を目的として、これらのユニットでの学生教育にさらに力を入れて行きたいと思っています。

また、第1学年後期の「3-2-1生体関連物質の原子と分子」はコア・カリキュラムの一部であると同時に歯科専門教育への導入教育でもあります。私はこのユニットおよび「3-5基礎科学実験」を通して、学生が化学および生体関連物質に関する知識や考え方を深めること、考察力を養うこと、スムーズに専門教育に移行できることなどを目的として講義を行って行きたいと考えています。

第2学年では、ユニットの一部を担当する「3-3-2歯および歯周組織の構造と機能」、「3-4-2人体と生体材料」、「3-4-3人体と薬物・化学薬品」においては専門教育の基礎を理解させる教育、第5学年の臨床直前講義や第6学年の総括教育ではCBTや国家試験で役立つようさらなる学力の向上を目指した教育をしていきたいと思っています。

○研究に対する抱負

研究に関しては、ヘテロ元素、特に周期表第16族の硫黄・セレン・テルルなどのカルコゲン元素の他の元素には見られない特異な反応性を活用した新しい骨格変換反応の開発と薬理活性を有する複素環化合物合成への応用を主要な研究テーマとして研究を行っています。すでに、炭素-カルコゲン元素結合の光による均一開裂または遷移金属触媒への酸化的付加による開裂を鍵とした抗生物質の基本骨格であるβ-ラクタム環の新しい合成法やセレンと一酸化炭素の高い親和性を利用した炭化水素やカルボニル化合物のカルボニル化反応の開発に成功し、その成果はアメリカ化学会誌を始めとする国際的な学術雑誌に多数論文として掲載されています。

研究は主に、大阪大学大学院工学研究科の神戸宣明教授のグループと上記研究テーマの共同研究を行って

いるほか、海外では留学先である米国Purdue大学のDavid Thompson教授のグループとドラッグデリバリーシステム用の新規材料の開発、米国Fisk大学のLarry Pratt教授のグループとリチウムエノラートのカルボニル化の反応機構に関して共同研究を行っており、従来の有機合成化学の分野の研究をますます発展させるとともにバイオマテリアルの分野でも活発に研究を進めていきたい。また、学内でも積極的に共同研究を推進し、歯科医学の分野の発展に少しでも貢献できるように研究を行って行きたいと考えています。

今後、微力ではありますが、創立100周年を迎えようとしている大阪歯科大学の発展のためにできる限りの努力をしていきたいと思っています。皆様におかれましては、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

— # # # # # # # # —

化学教室主任教授

藤原 眞一（ふじわら しんいち）

工学博士

昭和35年生まれ、49歳

<学歴>

昭和53年 4月 大阪大学工学部入学

昭和59年 3月 大阪大学工学部卒業

昭和59年 4月 大阪大学大学院工学研究科
前期課程入学

昭和61年 3月 大阪大学大学院工学研究科
前期課程修了

昭和61年 4月 大阪大学大学院工学研究科
後期課程入学

平成 1年 3月 大阪大学大学院工学研究科
後期課程修了

平成 1年 3月 工学博士学位取得（大阪大学）

<職歴>

平成 1年 4月 大阪歯科大学助手（化学教室）

平成 1年 4月 大阪歯科大学講師（化学教室）

平成16年 3月 米国Purdue大学客員教授
（平成17年9月迄）

平成18年 6月 大阪歯科大学助教授（化学教室）

平成19年 4月 大阪歯科大学准教授（化学教室）

平成21年10月 大阪歯科大学主任教授（化学教室）

平成21年度 オープンキャンパス実施

平成21年度最初のオープンキャンパスを7月28日(火)、第2回目を8月25日(火)にいずれも午後1時から楠葉学舎において実施しました。当初、5月31日(日)に予定していた第1回目が新型インフルエンザの影響で中止となったため、夏期休暇期間中に2回開催することになりました。

川添理事長・学長の挨拶、本学の歴史・教育方針および平成22年度入学試験の説明のあと、2班に分かれて講義室や図書館など学内施設を案内しました。

第1回目は89名(学生51名・保護者38名)、第2回目は74名(学生42名・保護者32名)の参加者があり、歯科実習体験や本学学生との交流により、本学への興味・理解が深まったとのアンケート回答を得ている。

第41回 全日本歯科学生総合体育大会

第41回全日本歯科学生総合体育大会は、明海大学歯学部事務主管の下、8月1日(土)から12日(水)の日程で開催された。本学の成績は総合4位に入賞、部門別ではアーチェリー、ボウリング、漕艇が優勝し、ラグビー・フットボール、柔道、弓道が準優勝、剣道が3位と健闘した。

次の第42回大会は、徳島大学歯学部主管により開催され、本学も5部門で主管を務めることになっておりより一層の活躍が期待される。

平成21年度 地方父兄会開催

兵庫県在住の父母58名の方々が出席し、兵庫県父兄会が8月29日(土)、神戸ポートピア・ホテルにおいて開催された。父兄会から釜田博史幹事長、巽久宜副幹事長、大学からは川添堯彬理事長・学長、諏訪文彦学生部長、田中昭男教務部長、武田昭二教授、池尾隆教授、岡崎定司教授、松本尚之教授、林宏行教授が出席した。

午後1時から総会が開催され、父兄会幹事長および学長挨拶に続き、教務部長が学士試験の成績と国家試験対策について解説、学生部長が学生のマナーと態度およびアンケート集計結果を報告した。引き続き、学年ごとに個人懇談会が行われ、就学上の問題などについて熱心に話し合われた。

平成21年度 備品調査

平成21年度備品調査は、8月3日(月)に楠葉学舎および牧野学舎、4日(火)に天満橋学舎および附属病院について法人役員、内部監査室、監査法人立会いのもとに行った。今年度の調査対象は、備品が平成16年度、平成20年度ならびに平成21年4~6月の取得物および全リース物件で、合計1,018件について調査した。

調査に先立ち、機器備品一覧表を各部署に配布し、機器備品の有無と常置場所の確認、備品シールの貼り付け状況、用品台帳、廃棄備品の有無等について事前確認を依頼した。調査は全般的にスムーズに進行することができ、備品は概ね適切に管理されていた。

調査結果

- (1) 総評
 - ・整備状況ならびに各部署の調査受入体制は総体として改善傾向にあり、大きな問題はなし。
 - ・ただし、部署ごとの整備状況、調査受入体制に引き続き格差あり。
 - ・不備事項も、従来と同様の指摘が繰り返し行われており、事後のトレース体制の見直しが必要。
- (2) 主要な不備事項
 - ・備品現物(模型)の所在不明
 - ・備品カードの所在不明、整理不良
 - ・備品シールの添付もれ
 - ・リース物件にリース契約ラベルの添付もれ
- (3) 今後の課題
 - ・不備事項の事後トレース体制の構築
 - ・備品管理、リース物件管理のルール見直しと周知徹底
 - ・定期的な自己点検ルールの検討

平成 22 年度 入学試験実施要項

本学が平成22年度に実施する入学試験の概要は、以下の通りである。平成22年度からは推薦入学試験に指定校制を採り入れ、募集人員も変更した。

平成22年度推薦入学試験

・募集人員 約30名（公募制・指定校制を含む）

(1) 公募制推薦

- ・出願資格 調査書の全体の評定平均値が3.3以上
高等学校長の推薦
入学を確約できること
- ・出願期間 平成21年11月2日(月)～11月20日(金)
- ・試験日 平成21年11月28日(土)
- ・試験科目 小論文・学力試験（英語、理科[物理・化学・生物の各Ⅰ・Ⅱから1科目選択]）
・面接
- ・合格発表 平成21年12月9日(水)

(2) 指定校制推薦

- ・出願資格 別に指定する高等学校長の推薦（1名）
調査書の全体の評定平均値が3.8以上
入学を確約できること
- ・出願期間 平成21年11月2日(月)～11月20日(金)
- ・試験日 平成21年11月28日(土)
- ・試験科目 小論文・面接
- ・合格発表 平成21年12月9日(水)

平成22年度一般入学試験

(1) 前期日程

- ・募集人員 約90名
- ・出願期間 平成22年1月6日(水)～1月25日(月)
- ・試験日 平成22年1月30日(土)
- ・試験科目 外国語・数学・理科・小論文・面接
・外国語(英語Ⅰ・英語Ⅱ・リーディング)
・数学(数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学A・数学B)
・理科(物理Ⅰ・Ⅱ, 化学Ⅰ・Ⅱ, 生物Ⅰ・Ⅱ
の3科目のうち1科目を選択)
- ・合格発表 平成22年2月4日(木)

(2) 後期日程

- ・募集人員 約10名
- ・出願期間 平成22年2月15日(月)～3月1日(月)
- ・試験日 平成22年3月13日(土)
- ・試験科目 前期日程と同じ
- ・合格発表 平成22年3月17日(水)

関西医科大学と「学術交流に関する包括協定」締結

平成21年8月19日、大阪歯科大学と関西医科大学は、相互に連携して学術交流を促進させることにより、研究・教育内容の充実と学術・文化の発展および科学技術の高度化を図ることを目的として、「学術交流に関する包括協定書」を締結しました。同日、本学の川添学長と関西医科大学の山下学長が、リーガロイヤルホテル大阪において包括協定書に署名し、調印式を行いました。

両校はともに、大阪市、枚方市にまたがる京阪沿線にキャンパスと附属病院を設置しており、これまでも共同研究・人材面などにおいて交流を重ねてきました。この協定を契機として、さらに活発に学術交流を行い、両校の教育・研究活動の発展に寄与していきたいと考えています。学術交流の内容として、(1)学生および大学院生の教育・研究の交流、(2)医学・歯学情報の交換、(3)共同研究プロジェクトの推進、(4)教職員の相互交流を掲げています。

関西医科大学は、昭和3年6月、現在の教養部のある牧野キャンパスの地に、大阪女子高等専門学校として創立されました。本学も、その1年後の昭和4年7月に、同じ牧野の少し離れたところに新学舎を建設し、当時の生野学舎から移転しています。戦後、大阪女子医科大学を経て昭和29年に、関西医科大学に改称し、男女共学となっています。「慈仁心境」を建学の精神とし、慈しみと仁愛を心の規範とする医療人の育成を教育理念としている。



本学・川添学長（左）と関西医科大学・山下学長（右）

平成 21 年度 科学研究費補助金交付
ならびに学内学術研究助成金交付

平成21年度の科学研究費補助金は新規に14件が採択され、継続分とあわせて32件、総額53,599,000円（直接経費41,230,000円・間接経費12,369,000円）が交付され

ることになった。研究種目別では、基盤研究(C)が18件(内新規7件)、若手研究(B)が11件(同7件)、若手研究(スタートアップ)が3件(同0件)であった。

また、学内における平成21年度の助成金については、大学院生を対象とした学術研究奨励助成金が4件で2,700,000円、共同研究助成金が1件で5,200,000円が各々採択された。

平成 2 1 年度 科学研究費補助金採択者一覧

研究種目	継続 新規	研究代表者	所 属	研究課題名	助成額(円) 直接経費 間接経費
基盤研究 (C)	継続	西川 哲成	口腔病理学	理想的な足場材料サンゴ、その特性と新生骨形成	700,000 210,000
基盤研究 (C)	継続	長野 豊	内科学	口腔の健康状態と生活習慣病との関連の 解明－歯周炎の早期発見・治療への応用－	1,100,000 330,000
基盤研究 (C)	継続	桧枝 洋記	生物学	唾液腺上皮管腔形成におけるタイトジャンクション分子クローディングの役割	1,300,000 390,000
基盤研究 (C)	継続	合田 征司	生化学	慢性歯周炎進展機序におけるT細胞浸潤の役割についての解明	1,100,000 330,000
基盤研究 (C)	継続	好川 正孝	口腔治療学	歯髄・象牙質複合体再生のためのスポンジ状担体の開発と担体内骨形成促進因子	1,000,000 300,000
基盤研究 (C)	継続	吉川 一志	歯科保存学	レーザー高吸収体配合う蝕検知液を用いたう蝕の選択的除去	1,000,000 300,000
基盤研究 (C)	継続	呉本 晃一	欠損歯列補綴咬合学	線維芽細胞増殖因子が歯髄幹細胞の機能と分化を制御する	700,000 210,000
基盤研究 (C)	継続	前田 照太	欠損歯列補綴咬合学	有床義歯による咬合支持の回復が唾液中の免疫グロブリンと神経成長因子に及ぼす影響	1,100,000 330,000
基盤研究 (C)	継続	宮前 雅見	内科学	周術期の吸入麻酔薬とアルコールによる心筋保護相乗効果のメカニズムと臨床応用の解明	1,100,000 330,000
基盤研究 (C)	継続	鎌田 愛子	生化学	歯周組織再生に及ぼすアディポサイトカインの影響	900,000 270,000
基盤研究 (C)	継続	田中 昭男	口腔病理学	新規骨形成剤ペプチドによる歯周組織再生	1,100,000 330,000
基盤研究 (C)	新規	青木 秀哲	総合診療・診断科	ポストポリオ症候群と耳鼻咽喉科・歯科 的疾患との関連性についての研究	1,600,000 480,000

ODU NEWS No.155

研究種目	継続 新規	研究代表者	所 属	研究課題名	助成額(円) 直接経費 間接経費
基盤研究 (C)	新規	藤原 真一	化学	還元的脱離の促進を鍵とする炭素-テルル結合のアルキン類への触媒的付加反応の開発	1,800,000 540,000
基盤研究 (C)	新規	田中 順子	有歯補綴 咬合学	長期的にPMT Cを施術した高齢者のう蝕予防効果	600,000 180,000
基盤研究 (C)	新規	井上 雅裕	口腔 インプラント科	口腔上皮由来幹細胞による粘膜再生は線維芽細胞増殖因子により加速する	2,100,000 630,000
基盤研究 (C)	新規	野崎 中成	薬理学	多能性歯髄幹細胞の可塑性における機能性RNAによる分化制御に関する基礎的研究	1,800,000 540,000
基盤研究 (C)	新規	覚道 健治	口腔外科学 第二	咀嚼筋腱・腱膜過形成症の画像診断基準の確立と病態解明	2,700,000 810,000
基盤研究 (C)	新規	杉岡 伸悟	歯科麻酔学	口腔急性疼痛の心筋への影響に関する研究	1,400,000 420,000
若手研究 (B)	継続	川崎 弘二	口腔衛生学	感染象牙質の除去に対する光蛍光誘導定量法の応用	900,000 270,000
若手研究 (B)	継続	浅井 崇嗣	高齢者 歯科学	円滑な喉頭挙上を發揮できる咬合高径の決定	100,000 30,000
若手研究 (B)	継続	川本 章代	高齢者 歯科学	徐放キャリアとして的高分子多糖の有用性	1,500,000 450,000
若手研究 (B)	継続	本田 領	歯科矯正学	新規ナノセンサによる口腔洗浄の洗浄力評価法	1,200,000 360,000
若手研究 (B)	新規	石塚 智子	薬理学	食品の硬さの嗜好を調整する脳内物質の解明	1,900,000 570,000
若手研究 (B)	新規	井上 博	生理学	炎症発症機序解明におけるNK細胞の結合組織浸潤機構についての解析	1,600,000 480,000
若手研究 (B)	新規	堂前 英資	生化学	骨組織に存在するマクロファージの骨免疫学的検討—顎骨壊死メカニズムの解明—	1,500,000 450,000
若手研究 (B)	新規	西田 尚敬	歯科保存学	カルシウムドーブチタニアナノチューブを応用した歯科用セラミックス材料の創製	1,100,000 330,000
若手研究 (B)	新規	牧田 佳真	化学	シクロデキストリンを利用した機能性コンポジットレジンの開発	800,000 240,000
若手研究 (B)	新規	田口 洋一郎	歯周病学	Beta-defensin-2産生による歯周自然免疫活性化機構のメカニズム解析	2,200,000 660,000

研究種目	継続 新規	研究代表者	所 属	研究課題名	助成額(円) 直接経費 間接経費
若手研究 (B)	新規	有城 久美子	内科学	歯周炎に合併する動脈硬化病変の早期発見と心臓弁膜病変の評価	1,700,000 510,000
若手研究 (スタートアップ)	継続	高間 敬子	口腔解剖学	分離培養破骨細胞の基質からの離脱に対するポドゾーム接着構造の動態解析	1,260,000 378,000
若手研究 (スタートアップ)	継続	奥田 恵司	欠損歯列 補綴咬合学	歯の喪失が学習・記憶能に及ぼす影響－ 海馬グルタミン酸測定による検討－	1,170,000 351,000
若手研究 (スタートアップ)	継続	竹安 正治	小児歯科学	歯髄幹細胞における多分化能の解析	1,200,000 360,000
合計 32件 (内 継続18件) 53,599,000円					41,230,000 12,369,000

平成21年度 大阪歯科大学学術研究奨励助成金採択一覧 (大学院生)

氏 名	専 攻	学 年	研究課題	助成額(円)
恩田 康平	歯科保存学	3	接着性レジンセメントの歯質ならびに修復材料に対する接着性能に関する研究	600,000
坂田 岳一	口腔外科学 第一	3	破骨細胞分化にケモカインが及ぼす影響について	700,000
窪田 亮介	口腔外科学 第二	4	オトガイ部骨延長時における舌骨上筋群に対する評価	650,000
片尾 祐子	歯科矯正学	3	破骨細胞分化におけるエストロゲンの役割	750,000
計 4件				2,700,000

平成21年度 共同研究助成採択課題

新規 継続	研究代表者	研究分担者 (* : 幹事)	研究協力者	研究課題	助成金額
継続	福島 久典	山中 武志*、山根 一芳 真下 千穂、南部 隆之 杉森 千恵子、上田 雅俊 高津 兆雄、林 宏行 吉田 匡宏、森田 章介 山本 一世	C. B. Walker K-P. Leung	口腔バイオフィルムの 解明	5,200,000

ハイテク・リサーチ・センター整備事業
 「歯周病に対する戦略的研究」
 第1回研究成果報告会

平成21年7月11日(土)、楠葉学舎2号館1階第5大講義室において、文部科学省の「私立大学学術研究高度化推進事業」に平成19年度に選定された、ハイテク・リサーチ・センター整備事業「歯周病に対する戦略的研究」(代表：口腔病理学講座・田中昭男教授)の第1回研究成果報告会が開催された。

特別講演として、大阪大学大学院歯学研究科高次脳口腔機能学講座の阪井丘芳教授を迎え、「唾液腺形成機構の解析-再生をめざした組織工学的アプローチ」と題して講演していただいた。そのあと、「歯周病に対する戦略的研究」に関して、「歯周病とメタボリックシンドロームとの双方向性発症の解明」と「歯周組織の再生を促進する分子・細胞学的解明」の二つのプロジェクト研究のもと、それぞれ12題および15題の研究結果が報告された。

共通のテーマおよびプロジェクトのもと、講座の垣根を越え、さらに他大学・研究所・企業との共同研究というかたちで27題もの研究成果が報告されたことは画期的なことである。また、報告者には3名の大学院生も含まれていた。研究活性化のひとつの方向性をしめす形式として、ハイテク・リサーチ・センター整備事業の今後の展開が期待される。



学長挨拶・豊田副学長



特別講演・阪井大阪大学大学院教授



開会の辞・田中代表



会場の様子

「歯周病に対する戦略的研究」第1回研究成果報告会

特別講演「唾液腺形成機構の解析—再生をめざした組織工学的アプローチ—」 大阪大学大学院歯学研究科 高次脳口腔機能学講座 顎口腔機能治療学教室 阪井 丘芳 教授			
プロジェクト1 歯周病とメタボリックシンドロームとの双方向性発症の解明			
No	報告者	所属	研究テーマ
1	長野 豊	内科	動脈硬化の危険因子と歯周状態の関連について
2	澤井 宏文	内科	TNF α による破骨細胞分化誘導におけるMAPキナーゼの役割
3	能登原靖宏	歯周病	単球系細胞のマクロファージ化に伴うosteoprotegerin mRNAの誘導
4	合田 征司	生化	エムドゲインが骨芽細胞に及ぼす影響
5	堂前 英資	生化	FACS Aria Cell Sorterによるstable遺伝子ノックダウン細胞の分取
6	井上 博	生理	破骨細胞分化におけるSMS1の影響について
7	居波 薫	歯科矯正	破骨細胞分化における長時間作用型NO供与体の影響
8	金田 一弘	歯科麻酔	セボフルランはProtein Kinase CとミトコンドリアK _{ATP} チャンネルの活性化、およびNitric Oxide Synthaseの発現増強により慢性エタノール摂取による心筋保護を増強させる
9	金田 一弘	歯科麻酔	慢性中等度アルコール摂取による心筋虚血耐性はendothelial nitric oxide synthase (eNOS) の発現増強によりアルコール中止後も少なくとも7日間持続する
10	大草 知佳	歯科麻酔	1MAC セボフルランによるプレコンディショニングのmemoryには、PKC α , ϵ の細胞膜へのtranslocationを要すが、PKC δ は必要としない
11	大草 知佳	歯科麻酔	セボフルランによるプレコンディショニングの心筋保護は、虚血再灌流後のextracellular signal-regulated kinaseの活性化が必要である
12	稲村 吉高	歯科麻酔	アプロチニンは虚血再灌流後のPKC δ , GSK3 β のリン酸化およびnitric oxideの産生を阻害し、セボフルランによる心筋ポストコンディショニングを消失させる
プロジェクト2 歯周組織の再生を促進する分子・細胞学的解明			
13	戸田 伊紀	解剖	β -TCPの抜歯窩修復に関する実験的研究
14	竹村 明道	解剖	カルボキシメチルキチンの抜歯窩修復に関する実験的研究
15	諏訪 文彦	解剖	β -TCP/CMキチン複合材の抜歯窩修復に関する実験的研究
16	今井 弘一	歯科理工	代謝活性を考慮した金属イオンの発生毒性
17	檜枝 洋記	生物	唾液腺の管腔形成・分化・再生に関連した遺伝子の網羅的解析
18	橋本 典也	歯科理工	未分化間葉系幹細胞とハイドロキシアパタイトシートを組み合わせた新規骨再生誘導メンブレンの可能性
19	箕浦 沙恵	歯科矯正(院)	高感度QCM歯科バイオマテリアルナノセンサの開発
20	大島 浩	歯科理工	チタン表面のフェムト秒レーザーによる改質
21	鎌田 愛子	生化	アディポサイトカインが骨芽細胞の分化に及ぼす影響
22	岡崎 定司	欠損補綴	前骨芽細胞様細胞の分化誘導とアディポサイトカイン受容体の発現
23	岡井 有子	小児歯科(院)	ラット歯髄細胞における軟骨分化能の解析
24	河合 咲希	小児歯科(院)	乳歯歯髄由来細胞のDNAマイクロアレイ解析
25	野崎 中成	薬理	歯髄細胞の間葉系細胞への分化における遺伝子発現のクラスタリング解析
26	富永 和也	口腔病理	新規合成ペプチドによる硬組織形成
27	西川 哲成	口腔病理	新規開発の多孔性カルシウム粒子に対する生体反応

第 17 回 公開講座 (天満橋講座)

第17回大阪歯科大学公開講座(メインテーマ「健やかな人生は、口や歯の健康から!」)が、9月5日(土)と12日(土)の2日間、天満橋学舎西館5階臨床講義室において開催された。各講座とも、一般的な歯の健康に関するものであったため、市民の関心も高くほぼ満席となった。講師陣も画像を用いるなど工夫をこらし、出席者からの多くの質問にも適切に回答していた。

第17回公開講座(天満橋講座)

日 程	演 題	講 師
9月5日	① 歯並びと咬み合わせの大切さ	歯科矯正学講座 教授 松本 尚之
	② 成人の歯を守る	口腔衛生学講座 准教授 三宅 達郎
9月12日	③ 子供の歯を守る	小児歯科学講座 教授 大東 道治
	④ シニアの歯を守る	高齢者歯科学講座 教授 小正 裕



平成 21 年度 実験動物慰霊祭

平成21年9月25日(金)午後1時30分より、実験動物慰霊祭が牧野学舎動物塚において執り行われた。

多数の教職員、大学院生および学部学生が参列するなか清岸寺導師の読経が始まり、歯科医学の教育・研究のためにその身を捧げた動物たちの冥福を心より祈り、参列者一同順次、焼香を行った。

最後に、豊田副学長から「本学における医学・医療の研究のために犠牲となった数多くの動物への感謝の念を忘れてはならない」との挨拶があり、参列者一同今一度、動物たちの御霊に対し合掌し、平成21年度実験動物慰霊祭は無事終了した。

(出席者：教職員40名、学生134名)



学位(歯学)授与報告

原田 竜 乙第1539号 (平成21年9月18日)

DNA microarray analysis of dental pulp fibroblasts exfoliated from deciduous teeth(乳歯歯髓由来細胞のDNAマイクロアレイ解析)

渡邊 記代 乙第1540号 (平成21年9月18日)

TNF- α enhances MMP-2 production in deciduous dental pulp fibroblasts(TNF- α 刺激乳歯歯髓由来線維芽細胞におけるMMP-2産生)

堀田 博史 乙第1541号 (平成21年9月18日)

有限要素法による小児期の咬合育成に関する研究
-オトガイ帽装置による下顎歯列および下顎骨への影響-

[訂正とお詫び]

第154号に掲載しました学位論文名につき、下記の通り訂正するとともに両先生には深くお詫びいたします。

- ・中塚美智子先生の学位論文名
papollae → papillae
- ・上村 守先生の学位論文名
connective papollae → connective tissue papillae
melitus → mellitus

附属病院で「ボランティアコンサート」

大阪歯科大学管弦楽団に卒業生と京都市交響楽団の団員が参加した「大阪歯科大学附属病院・ボランティアコンサート」が8月30日(日)午後3時から、附属病院「プラザ14」の特設会場において開催された。

このコンサートは、入院されている患者さんが家族の皆さんとともに身近で生演奏を楽しんでいただくことを目的に学生が企画し、病院の先生方の協力を得て開催されたものである。100名を超える聴衆を前に、エルガーの「愛の挨拶」など数曲が演奏され、時には手拍子も交えて聴衆と一体となり、軽快なリズムと繊細なハーモニーの中で去り行く夏の午後のひと時は瞬時にして過ぎて行った。

学生たちは、「ボランティアコンサート」を成功させるために、夏休みを返上して連日、夜遅くまで練習を重ねてきた。一方、OBの先生方やボランティアで参加していただいた京都市交響楽団の皆さんとは、日程上の問題で、全員そろっての合同練習は限られた回数しかできなかったため、「大丈夫だろうか?」という不安と「絶対できる!」という気持ちが心の中で交錯していたという。また、今回のコンサートの趣旨が、「患者さんに身近で生の管弦楽を楽しんでもらう」ことにあるため、ほんとに患者さんが参加してくださるのかということも気がかりだったようだ。

しかし、「案ずるより産むが易し」とはこのことか、当日、患者さんとそのご家族の皆さんが20名近く参加されたのを始め、開演時間近くなっても続々とお客さんが押し寄せ、用意した席では足りなくなるほどの盛況となった。当日の管弦楽団の構成メンバーは、学生が13名、OBが12名、京響の方が4名の29名で、パート編成はバイオリン12名、ビオラ2名、チェロ2名、コントラバス1名、ピアノ1名、ドラム1名、フルート4名、クラリネット4名、そしてトランペット2名です。指揮は日頃、ご指導いただいている音楽科を出られた後藤先生が務められた。合奏の合間には、楽器紹介と題して、フルートやトランペットなどソロで短いフレーズの演奏があり、自作を披露したり、緊張のあまり顔を真っ赤にしながらか演奏したりと、一番力が入っていたのではないのでしょうか。聴いていた人たちにとっては「アッ」という間の1時間でしたが、演奏していた学生たち

にとって、この1時間の中にこれまでの練習だけでなく、コンサートという「形」をつくるためのさまざまな準備、意見交換、協力ということが凝縮されていたように思える。無事、演奏を終えた学生たちの表情は、肩の荷が下りたように自然と笑顔になっていた。そして、何よりも満員の聴衆の拍手がそれに報いていた。

病院でコンサートを開催するにあたって、清水谷先生と井関先生に何かとお世話いただいた。また、京都市交響楽団の方々の参加には元学長の古跡先生がご尽力された。OBの先生方にとっても、聴衆を前に歴史ある本学の交響楽団を引き継いでいてくれる学生とともに演奏する機会をもてうれしかったのではないのでしょうか。学生が企画した「ボランティアコンサート」は、学生たちの熱意に、多くの人の協力と参加により、エルガーの「威風堂々」のテーマ進行のごとく、程よく抑制された高揚感とともに無事終了した。

ボランティアコンサート・プログラム **##**
##

- **Under the Sea**
 (ディズニー映画「リトルマーメイド」主題歌)
- **Sing Sing Sing**
 (ベニー・グッドマン楽団が十八番としたジャズの名曲)
- **愛の挨拶**
 (さわやかなメロディーが印象的なエルガーの小品)
- **ジェームス・ボンド**
 (「007シリーズ」でJ.ボンドのテーマとなった曲)
- **アラジン・メドレー**
 (ディズニー映画「アラジン」からアカデミー賞受賞曲等)
- **風になりたい**
 (音楽グループ「THE BOOM」宮沢和史の曲)
- ★ **楽器紹介(ソロ演奏)**

◎大阪歯科大学管弦楽団

大正11年頃に音楽部として創設され、数年後には団員60名を数えるまでになり、当時の学生オーケストラの草分け的存在であった。演奏旅行を行い、定期演奏会を開催するなど、年に十数回演奏会を行っていた。昭和16年に管弦楽部に改名している。現在、部員数は26名。

◎京都市交響楽団(京響)

昭和31年に創立され、京都市が運営する日本で4番目に古く、自治体直営の唯一の楽団。京都コンサートホールをホーム会場に定期演奏会を開催している。歴代の常任指揮者には、森 正、外山雄三、渡邊暁雄、山田一雄など日本を代表する指揮者が名を連ねている。現在は、広上淳一氏が第12代常任指揮者を務めている。



♪・♪・♪・♪・♪・♪・♪・♪・♪・♪・♪・♪・♪・♪・♪・♪
去り行く夏を惜しむように熱い演奏は続いた・・・
♪・♪・♪・♪・♪・♪・♪・♪・♪・♪・♪・♪・♪・♪・♪・♪



第 17 回大阪歯科大学公開講座
特別講座（プレ 100 周年記念事業）

日 時：平成 21 年 11 月 21 日(土)午後 1 時

場 所：ドーンセンター（天満橋）

○講演「健康増進と生きがい（QOL）に
貢献する歯科医療」

大阪歯科大学名誉教授 井上 宏

○講演「歯科医療 100 年の軌跡と未来」

大阪歯科大学附属病院長 覚道健治

人 事

職員採用

附属病院 看護師 作村麻由美
附属病院 看護師 林 江里子
以上 H. 21. 7. 1付

依願退職者

総合診療・診断科 助教 青木 秀哲
附属病院 看護師 門司麻依子
以上 H. 21. 7. 31付

眼科 病院准教授 永井 由巳
附属病院 薬剤師 一居 真代
以上 H. 21. 8. 31付

委 嘱

大阪歯科大学附属病院財務改善検討委員会委員
田中 昭男
H. 21. 6. 25付
資産運用検討委員会委員長 伊達 洋彦
資産運用検討委員会委員 田中 昭男, 田治米保夫
三谷 卓, 覚道 健治
田中佐和子, 中村 廣志
前野 隆, 中尾 昌彦
以上 H. 21. 7. 23付
知的財産委員会委員長 覚道 健治
知的財産委員会委員 田中 昭男, 諏訪 文彦
中村 廣志
以上 H. 21. 8. 6付

医療嘱託

眼科 医師 長央由里子
眼科 医師 永井 由巳
以上 H. 21. 9. 1付

あとがき

—余談—

学生たちが「ボランティア・コンサート」を開催すると小耳に挟み、8月も終わりの日曜日の午後、病院に出向いた。定刻の5分前に会場である「プラザ14」に着いたが、すでにほぼ満席の状態が一番後ろの席に腰を下ろした。なお、続々とお客さんがつめかけ、学生スタッフがあわただしく案内におわれていた。入院患者の方々とその家族の皆さんも着席されていた。

調律の音とともに、ざわついていた会場は静けさを取り戻し、少し遅れてコンサートは始まった。主将の宮川まどかさんの進行に合わせて元気の良い演奏が次々と繰り広げられた。会場の片隅では、支援された清水谷先生や井関先生も少し心配げな面持ちで見守っておられた。隣の席の自らも演奏会を開催しておられる更谷先生から「こうした病院でのコンサートは増えてきていて、病院の社会的な評価にもつながっているのです」ということを教えていただいた。

演奏を聴きながら、本学の学生たちが同好の集まりであるクラブの領域を超え、広く社会へ目を向け、しかも「患者さんのために」という自らの将来の職業と関連させた共通のコンセプトのもと、こうした活動をしている姿を見てうれしくなってきた。勉強で忙しく、少人数でオーケストラの編成も大変だと思うが、視野を大きく持ち、少人数だからこそできる演奏形態を模索してもらいたい。音楽という共通語を通じて。

大阪歯科大学広報 第 155 号

発行日 平成 21 年 9 月 30 日

編集発行 広報委員会

〒573-1121 枚方市楠葉花園町 8-1

電話 072-864-3111